

## <議論のポイント>

- ① 道路と災害に係る歴史認識
- ② 災害から得られた教訓と課題
- ③ 今後の対応の方向性

## <主な課題と方向性(案)>

1. 迅速な応急復旧のための備えの充実
  - ・道路啓開計画や大雪時のタイムラインなど復旧戦略の事前策定
  - ・被災状況を速やかに把握する体制や施設の充実
2. 災害時の交通マネジメントの強化
  - ・交通システムマネジメントと交通需要マネジメントの統括的な実施体制の構築
  - ・ICTを活用した情報収集・情報発信の強化
3. 道路施設の耐災害性の強化
  - ・路線の重要性に応じた耐災害性能の設定と各施設の現状把握
  - ・リスク箇所における対策の早期実施(耐震補強、法面对策、停電対策等)
  - ・耐災害性確保の視点からのルート選定、構造設計、占用許可等
4. 災害に強いネットワークの構築
  - ・災害時の交通機能確保の観点も踏まえたミッシングリンクの解消、暫定2車線区間の四車線化等の計画的な推進
  - ・高速道路に並行する直轄国道の強化、主要地方道の選択的強化
  - ・多重性を含むネットワークの脆弱性評価の充実
  - ・長時間遮断により、救急活動等に大きな影響を与える踏切の対策推進
5. 周辺からの被災リスクへの対応
  - ・道路区域外の法面の点検実施、沿道区域制度の充実・活用や砂防事業との連携による対策推進
  - ・電柱倒壊等による道路閉塞等を防止する無電柱化の推進
6. 道路の副次的機能の積極活用
  - ・高速道路の避難場所としての活用促進
  - ・道の駅やSA・PAの防災拠点としての機能強化
7. 通行規制基準等の見直し
  - ・大雪時・強風時の予防的通行規制を含めた通行規制基準の検証
  - ・災害時の迅速な特殊車両許可を可能とする審査システムの構築及び道路構造の電子データ化